

PDCAサイクルっていうのは？



A. 利用する子どもの現状の維持と改善を目指すものなの。

Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Act(改善)のサイクルを繰り返すことで、継続的な業務などの改善を目指していくものなの。

ただ単に「PDCA」ということもあって、サイクルが付くのは、最後のステップAct(改善)が終了したら、また最初のPlan(計画)に戻って循環させるという意味なのよ。

「PDCA」も「PDCAサイクル」も、一般的には同じ意味で使われます。

Plan(計画)というのは、「目標の設定や、目標を達成するためのアクションプランを立てる」ことで、それを決めるということは、PDCAをやっていくうえでのスタート地点になるのね。

数字で把握できる指標を使ったりして、誰が見てもわかりやすく具体的に設定することが重要とされているの。

初回であれば、そこまでの工程も入ります。

Do(実行)はPlan(計画)で立案した目標やアクションプランをもとにした「実行」を意味しているわ。

ただし、このDoには「試行」という意味も含まれていて、実行してみたけど有効だったか？とか、もっと別の方法はない？なんかを検証する段階でもあります。

なので、計画どおりに行っても行かなくても、きちんと記録を取っておく必要があって、これが案外重要なことなのよ。

利用する子どもや保護者の意向の調整、事業所とのかかわりの調整なんかも入ってきます。

さまざまな調整を行って、サービス担当者会議も、ここで行われることになるの。

Check(評価)は、目標やアクションプランが達成できたかとか、計画どおりに実行できたか、について「評価」します。

上手いかなかった場合は、その原因の分析をするし、上手いいったなら、なぜうまくいったのか、という分析をしていくの。

定期的な[モニタリング](#)や実績の確認などを行って、計画変更の必要性の有無の確認をするのね。

Act (改善) では、検証結果で解ったことについて「改善点を考え」て、再アセスメントを行って、計画を修正・更新していきます。

引き続き計画通りに進めるのか、計画そのものを改善していくのか、視点を変えてみるのか、計画を中止、延期するのか、などね。

なるべく多くの選択肢の中から、この先の課題を検討、決定していくようにするのよ。

「PDCAサイクル」は、目標ややることが明確になるし、行動に集中できる、課題や足りないところがわかりやすい、というメリットがあるのよ。

その反面、あまりアバウトな計画だったり、頑張りすぎたり、判断が甘かったり、無理があったりするとうまくいかなくなります。

きちんと記録をしながら進めていかないと解りにくいかもしれないわね。

計画というものは、作りっぱなしのままでは、すぐに現状に合わなくなってしまうものなの。

適時の更新が求められていて、半年に一度以上の見直し(モニタリング)が必要と決められているのよ。

そのため、Actまで行って、再度Planに進んで、これをくるくると循環させて継続的に改善していくことが求められているのね。

[《MENU》](#)

[《説明責任ってなに？》](#)

[《適切な支援の提供って？》](#)

2021-03-08 掲載